

# 愛汗大志



令和元年 7月10日 (水)  
南城市立知念中学校  
校長 垣花 英正



## ○校長講話

7月2日(火)の校長講話では、知念中の良さの一つをお話ししました。

梅雨が明け、知念中学校の校庭には、ツマベニチョウ、オオゴマダラ、カバマダラ、アオスジアゲハなど、普段あまり見かけない蝶が普通に飛んでいます。このような学校は多くはないと思います。

小さいときから知念に住んでいる生徒達にとってはあたりまえの光景も、実はそうではなく、素晴らしいことなのだということを伝えました。



校庭のツマベニチョウ

## ○七夕

先週は七夕でした。本校の玄関多目的ホールで笹の葉に七夕飾りと短冊をつりました。

地域の方に笹の葉を提供してもらい、3組さんが中心となって準備をしました。

「席次をあげる」「優勝したい」「身長が伸びますように」などの目標や希望が書かれたたくさんの短冊が飾られました。中には「ドラえもんが来るように」というユニークなものもありました。生徒の目標や希望が叶うといいですね。



## ○学校評議員会 7月7日(日)

7月7日(日)、今年度第1回目の学校評議員会が行われました。この日は知念ピック見学と合わせての評議員会の予定でしたが、悪天候で知念ピックが延期となり、授業参観と評議員会となりました。

評議員会では、学校経営方針、学力向上の取組、生徒の活躍の様子等を説明し、評議員の方々から意見や助言をいただきました。その中のいくつかを紹介します。

- ・「知学タイム」の取組は学力向上に大いに役立っている。これからも続けて欲しい。
- ・昨年度、英検、漢検で準2級に合格した生徒が多くいることはすごいと思う。
- ・知念の子どもは自信が無い生徒が多い。子ども達に自信を持たせることは学校の責務だ。
- ・知念では、幼・小・中と一緒に過ごしているので学年での自分の位置が決まっておき、競争心が弱いように思える。先生方の努力で変えて欲しい。
- ・間違ったことをしたときは、地域と連携して指導すれば生徒は変わるので、連携して指導して欲しい。

- ・技術の授業では、互いに手伝いながら熱心に本立て作りに取り組んでいた。曲がった釘を直して使っているのも物を大切にしている心があったと思う。



## ○社会人講話 7月9日(火)

7月9日(火)5,6校時に、2年生を対象に社会人講話が行われました。講師は、南城市在住で、株式会社ヤブサチ社長の大城直輝さんとTAMAレンタ企画代表の玉城堅矢さんです。

大城さんは、ヤブサチに関わるすべての人に幸せを届けたいという熱い思いと、会社を選ぶのではなく自分のやりたいことを仕事にしてほしいというメッセージを語ってくれました。

玉城さんは、夢ややりたいことを持ち続けて欲しい、自分も楽しむことで人に笑顔を届けられるというメッセージと、世界中の人に沖縄の魅力を知ってもらいたいというこれからの夢を語ってくれました。

大城さん、玉城さん、お忙しい中、知念中学校のために貴重なお話をしていただきありがとうございます。

### ☆生徒の感想

- 大城さんの話を聞いて、給料が高いからこの仕事に就くのではなく、自分が好きなやりたいと思ったことの仕事をやろうと思った。(我如古大和君)
- 玉城さんの話を聞いて、逃げることは悪いことではなく視線を変えて挑戦することが大切で、いろいろな人と関わって感謝することが大事だということが分かりました。(大田莉海華さん)



7月1日の朝、地域の方から良いお知らせのお電話がありました。本校の中学生が登校途中に死んでいる猫を片付けていたとの事でした。

確認すると、1年生の前里竜二郎君で、話を聞くと、知っているおばあちゃんの飼っている猫だったので、かわいそうに思い、道端に寄せたということでした。優しい心の持ち主ですね。